

会議記録

会議件名	平成27年度 第3回大東大須賀区域認定こども園化推進委員会
日時	平成28年3月17日（木）13：30から15：35
場所	大東市民交流センター会議室
出席者	推進委員会委員 15名（5名欠席） 事務局 9名

会議の概要

1 開会

2 あいさつ 山本委員長より

最近、「保育所落ちた。日本死ぬ。」という言葉が話題となっている。お子さんをお持ちのお母さんが発したようである。どうしてこういうキツイ表現をしたのか尋ねたところ、普通の言い方では取り上げてもらえないだろう、だから敢えてキツイ言い方をしたそうだ。確かに総活躍社会という背景には、女性の働き方に日本の経済はかかっているのかなという気がする。これは掛川市だけでなく全国的な課題であるが、待機児童の問題が色濃く出ていると感じる。

その中で本日、事務局からの説明の後に具体的な話に入っていくことになる。前回、委員の皆様から、そろそろ具体的な内容に入ったらどうかという意見があった。それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき、それが具体的に反映されるのが一番良い方法だと思うので、よろしくお願ひしたい。

浅井副市長より

本日はお忙しいなか出席いただきありがとうございます。南部の会場で開催することに意義があると考えています。

只今委員長からもありましたが、前回、認定こども園化について、どういう内容でどんな協議を行っていくのかというビジョンをまず示していけば、市民は安心するのではないかというご意見がありました。また、もっと具体的に進めようというご意見もありました。本日の内容としては、今の話にあったビジョン、構想がしっかりしていて、だから認定こども園化であるだとか、小さな園ではなく切磋琢磨できる認定こども園化が良いといった系統立った考え方を示したいと思っています。次の段階というところの問題となるが、本日は皆様のほうから率直なご意見をいただきたいと思っています。その上で市も整備場所を慎重に選定していきたいと考えています。

次に、保育園と幼稚園、公立と私立など、様々な形態があるので、それに関わる指導者、先生方もそれぞれの立場で今、動いています。これまでも公立幼稚園の園長会といった具合に、園長会もそれぞれでありました。これでは掛川市の乳幼児教育というものは「掛川らしさ」を作ることにはできないと思います。この大東大須賀区域の再構築の機会に、掛川市の乳幼児教育とはどうあるべきか、後ほど出てくるビジョンを元に、公立、私立、幼稚園、保育園、小規模保育所の垣根なく乳幼児の保育・教育に係る学会を作ろうと考えています。これに携わる人たちが、掛川市の保育・教育はどうあったらよいか議論しながら、手を取り合って子どもを大事にした掛川市を作っていきたい、そういったことを目指していきたいと考えています。今後もご指導いただきたいと考えています。

本日も活発な議論をお願いします。

3 報告事項

(1) 第2回推進委員会以降の進捗よく状況について

資料1について事務局より説明

質疑

委員長 ご質問、ご意見があればお願ひしたい。

- 委員 地区別人口推計について、外国人が激しく出入りするなど、今後の人口を推計することはかなり難しい作業だと思う。
- 事務局 推計と現実には差が出てくることを理解して話を進めていかないといけない。
- 事務局 ご指摘のとおりだと思う。これまでの動きを参考にしながら将来はこうなるかもしれないという推計である。その間に様々な社会変化があるので、これに決まったわけではない。人口は生き物で動いているので、現時点でのものとし、柔軟に取り扱っていく。
- 委員 区長会でこの認定こども園化について何か話題となっているか。
- 委員 理事会で何度か市から状況の説明があったが、質問は出なかった。
- 委員 話題が大東大須賀区域限定なので、全地域が興味があるというわけではない。
- 委員 掛川区域は先行してもうやっているものだから、大東大須賀区域もそれを見ながらやっていけばいいと感じている方も多と思う。
- 事務局 今のところ、説明に来てもらいたいという地区からの要望は来ていない。
- 委員 市内でも人口が増えている地区は少ない。大東大須賀地区は軒並み減少傾向で、そこが大きな課題だと思っている。社会動態と自然動態と両方あるが、共に減っている。
- 委員長 例えば、県内で人口増加となっているのが長泉、藤枝、袋井。静岡市は葵区、駿河区、清水区と3区あるが、清水区が約1万人弱減っている。9千人近いというすごい人数の人たちが、具体的に何処に出で行ったのかわからないか静岡市に質問をしている。藤枝が何故増えたかという焼津の海側の人が移ってきている。特に新東名が開通して藤枝岡部IC辺りがこれから開発されるが、小学校が足りない、幼稚園も入れないことになっている。このような具体的なことが判ると、対応の仕方も出てくると思う。

4 協議事項

(1) 掛川市乳幼児教育ビジョン(案)について

資料2について事務局より説明

質 疑

- 委員長 質問、意見等があればお願いしたい。
- 委員 幼稚園と保育園の先生方の交流活動、心の通い合いをまず全面的にやっていってほしい。是非お互いに歩み寄りながらやって欲しい。個人的には教育・保育の質を落とさず、保育園児も幼稚園児も同じ教育を受けるようにお願いしたい。
- 委員 一番の課題は幼稚園教諭と保育士との考え方の差だと思う。どのように先生たちが融合していくのがよいか、何かよい案があるか。
- 事務局 保育指針と幼稚園教育要領がある。保育指針の中で3歳、5歳のところで教育のことがすごく出てきているし、療育のことも出てくる。環境を通して子どもを育てていく、一人一人の発達に応じた保育、目指しているものは同じではないかと思っている。今度の幼保連携型認定こども園の教育保育要領を見ると、幼稚園の教育要領と保育指針が両方のいいところ取りである。先生たちがワークショップのようにお互いに話し合ったり、直接園に行ってみると、同じ所や違う所がたくさん見つかると思う。違う所があれば一緒に考えていく。掛川区域で幼保園が10年近く施設が同じで、幼稚園教育と保育を歩み寄りながら実施している。大東大須賀区域では違う施設が1つの認定こども園になるという所に大変さがあると思うので、交流しながら開園するまで取り組んでいかなければいけないと考える。目指すところは同じだと思っている。
- 委員 基本的にはいいところ取りの所ができれば一番いいと思うし、今までやってきたことを踏まえて話をしていくのだが、今度できる認定こども園が幼稚園でも保育園でもない、新たなものを作るという意識を持って取り組んでいくことが大事だと思う。
- 事務局 とてもエネルギーの要る、保育者にとっては不安を感じる取り組みだと思う。この認定こども園化には何年もかかることであるから、慌てず、しかし覚悟しながら丁寧に進めようと考えている。幼稚園と保育園、公立と私立では大きな違いがある。公立は園長会があり市全体と一緒に歩んでいる。私立は各園の特色を考えた取組をしている。そうしたものがバラバラでなく、掛川市ならではの教育・保育を創り出す機運として全ての従事者が集まって議論する場を作る。これには経営者も含まれていると思う。平成28年度にはそうしたものを研究し、平成29年度に

はどんどん進めていきたい。先ほど言われた「新しいものを創るんだ」という気運に結びつけたいと思っている。

委員長 参考までだが、養成する側から言えば、保育士資格に必要な科目と幼稚園教諭に必要な科目がほとんど共通である。総単位数からすると幼稚園教諭より保育士の方が多い。違いは何かというと、幼稚園教諭に必要な単位に乳幼児を保育する科目がプラスされると、同時に両方取れる。学生は、この科目が保育系か、幼稚園教諭系かと明確に区別していない。現実的に差が出てくるのは、就職先が保育所か幼稚園かという所から。お互いに研修し合えば目的は同じというところに行き着くはず。

各委員も帰られてからインターネットで「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」を探して読んでみてもらいたい。すごく面白い。現実的に幼稚園か保育所に勤めているとそこの色彩が濃くなるが、その前の学生が勉強している段階の所ではほぼ一緒である。かなり共通している所があると思うので、そこを加味しながら幼稚園教諭と保育士の交流はやっていけばいいと思う。

委員 かつて大東区域では保育園が民営化された。幼稚園と保育園の子どもは小学校に入学して何処で差がなくなってくるかと、小学校の先生等の話を聞いたら、1学期の夏休みが終わる頃にはみんな同じレベルだと伺った。

委員長 園児の交流はそれ程心配する必要はないように思う。子ども同士は意外と上手く溶け込む。難しいのは保育者の交流と保護者の理解。例えば障がいを持っている子どもと持っていない子どもが交流してもすっと入って行く。差別感を与えてしまうのは大人である。大人の融和、新しいことへの理解をきちんとすれば園児は全く心配ないので、その辺りを考えながらやってくればよいと思う。

(2) 大東大須賀区域認定こども園の整備場所について

資料3について事務局より説明

質 疑

委員長 質問、意見等があればお願いしたい。

委員 大須賀地区、千浜地区、大坂地区については、自ずから決まって来ると思う。城東地区の3幼稚園と1保育園をどうするかが一番の課題だと思っている。これから大勢で決めていくことだが、3幼稚園の距離、時間的なことを考えると、自ずから現在の城東保育園の辺りかなと私は思う。

委員 津波の浸水域になっていないが、横須賀幼稚園辺りだと保護者が津波の心配をしている。直接海が見えるからだと思う。保育園の方も海抜的にはほとんど同じか？

委員 よこすか保育園の方が低い。7m位、おおぶち保育園が11m位。

委員 よこすか保育園は周りが住宅地だから拡張は難しい。横須賀幼稚園についても西側が都市計画決定されているから、西側に拡張することはできない。おそらく何処かへ移転しなければならぬと思う。

委員 第4次被害想定の中で浸水域に入っていると、大変心配になる。浸水域の中に建設するのは良くない。もう少し高い所に建設した方がよいと思う。

委員長 候補地についてはいろいろな委員に自由な意見を出していただきたい。

委員 千浜地区は地図を見れば分かるように海も近いし、大きな川も流れている。正直、どこに建設してもあまり変わらない。保育園・幼稚園・小学校が隣接しており、入学前に小学校との交流があると思う。子どもも入学することに不安がなく、通学路も分かっているので保護者も子どもも安心できる所である。できれば現在のように小学校に近い方がよい。

委員 横須賀幼稚園の保護者からは津波の心配がすごくあり、少しでも北側にといい声が出ている。

委員 大須賀中学校の北側や南側は土地が確保しやすいのではないかと。ただし市の土地ではないという課題がある。大須賀運動場を活用するという方法も考えられる。

委員 3つの幼稚園が離れているので、真ん中辺りだと城東保育園の辺りと思う。

委員 城東地区の真ん中あたりが城東保育園になる、旧城東村役場（現北公民館）にも近い。個人的にはここがいいと思うが、十分な市有地がないことが課題。用地の買収が必要になると思う。慎重に進めないといけない。

千浜は海抜13mあり、津波の心配は少ないと思う。

委員 シオーネの前や大東支所横の体育館を解体して跡地に建て替えるという噂を聞いたことがある。

- 委員 既存施設を移転するとすれば、大須賀中学校か横須賀高校の辺りがよいと思う。おおぶち保育園はこども園化に対応した造りになっていると聞いた。
- 委員 おおぶち保育園だけまだ新しい。他の保育園はもう建て替えの時期になっている。おおぶち保育園はこども園化を考えて幼稚園用の部屋が3部屋ある。多少広くすれば活用はできると思う。
- 委員 千浜小の隣に幼稚園と小学校が駐車場として使用している土地があり、千浜小が移転するという噂があったが。小学校が移転しないなら、そこはどうか。
- 事務局 現在掛川市には小学校が全22校、中学校が9校、合わせて31校ある。小学校22校のうち1学年1クラスの単学級が11校あり、全国的に増えているが、掛川市も単学級が増えている。他市、例えば藤枝市と比較すると人口割、面積割にも、学校数は多い。いずれの校舎も老朽化してきている。そういった全体の計画もこれから始めなければいけない。小中学校だけでなく地区センターや公民館や体育施設等、市が所有している公共施設を10～30年度のスパンでどうするか、市で今後検討していく。そのことと、この南部地域の再編については調和を取っていく必要がある。実施していくなかで修正や、変更になることはあり得る。慎重に議論をし小中学校等をどうしていくかはこれから進む。千浜小をどうするかは決まっていない。
- 委員長 海拔がどのくらいかという話で議論が進んだが、東日本大震災の時に怖かったのが河川。津波が14km遡ったという。そこを考慮していく必要があるかもしれない。
- 委員 大震災の教訓を生かして検討してもらいたい。
- 委員 移転先の候補として大須賀中学校中学校の辺りという話が出ている。そこは広く場所が取れる。平で広く場所が取れて送迎にも向いていなければいけないと思う。津波よりも高い位置にもなる。
- 委員 千浜については千浜保育園・千浜幼稚園の場所がよいと思う。推計人口を見ると将来の運営に課題を感じる。大坂についても、大坂幼稚園・大坂保育園の北側が空いているので、そこを使えばうまくできると思う。大東支所の体育館は最大の津波が来た際には少し浸水すると思うので、少し心配。城東保育園については中心的な場所になるので、ここがよいと思う。
- 委員長 色々なご意見が出た。噂も出ている所もあるようだ。これも大事なことと思う。そういう方の納得も重要。とりあえず、本日のご意見をまとめて次回、整理をしていく形にしてくれば要点が見えてくるように思う。
- 委員 今後は、どの地区から始めるのか、順番の話になる。時期を逸しないような段取りよく進めて欲しい。
- 委員 早めに再編計画を作って欲しい。運営法人も早く決めてもらいたい。現在の法人が引き続いて運営するなら、園児や保育士・教諭の交流活動も進むが、先が見えない段階だと交流活動も進まない。
- 委員長 本日のメインは、候補地を皆さんから出してもらおうということだったが、この推進委員会そのものが意見を出す範囲は、ご意見を出してもらおうレベルというのはどの程度までなのか。
- 事務局 この場が決定するという事はない。最終的には市議会で決定する。その前に皆さんの意見を聞いて事務局が案を作る。予算と土地、地域へ説明に入った時に色々なご意見が出るので、最終的に調整を図りながら決めていくことになる。この場はご意見をたくさんいただいて、方向性や場所はどこがいいとかというご意見をまとめあげて、この委員会での考え方としたい。それを基に市として決めていきたいと考えている。
- 委員長 本日はかなり具体的にご意見をいただくことができた。本日の議論はここまでとしたい。

5 その他連絡事項 事務局より

今年度の開催はこれで終了となる。来年度も引き続きこの委員会は進めていく。次回は5月頃に開催したい。

6 閉会